

今週の内容

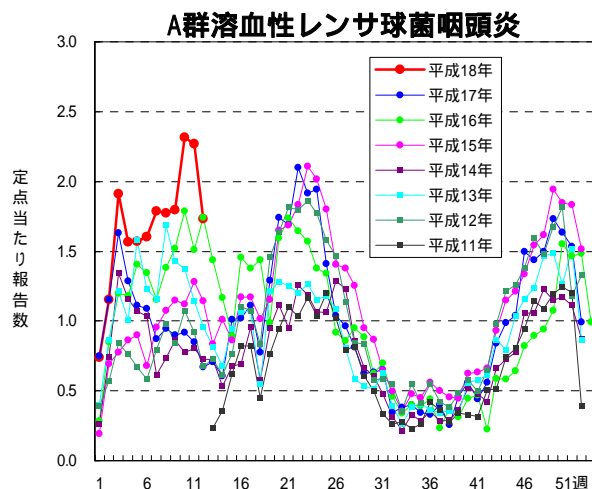
- ・ 感染症流行状況
- ・ 定点医療機関コメント
- ・ 全数把握感染症発生状況
- ・ 感染症だより (3 月前半 / 3 月後半)
- ・ WHO 疫学週報抄訳
2006 年 3 月 17 日(81 巻 11 号)
2006 年 3 月 24 日(81 巻 12 号)
- ・ 五類定点把握感染症報告数
(保健所別、年齢別)

感染症流行状況

注意する感染症

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の 1 定点当たり報告数は 1.73 人と、前週 (2.27 人) に比べて減少しましたが、過去 6 年間と比べ報告数の高い状態が続いています。

この菌は手指などの体の表面やのどから体内に侵入し、咽頭炎だけでなく、皮膚のおでき、リウマチ熱、急性糸球体腎炎、劇症型 A 群レンサ球菌感染症 (“人喰いバクテリア”) などいろいろな病気を起こすこともありますので、衛生管理の基本であるうがいや手洗いなどを心がけて感染を防ぎましょう。



その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

愛知県感染症情報センター (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

インフルエンザウイルス分離状況 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/0506infibunri.html>)

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/a_youren.html)

国立感染症研究所感染症情報センター (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

インフルエンザA型 2名
マイコプラズマ感染症 2名 4歳女、2歳男

溶連菌感染あり。

【一宮市 後藤小児科医院】

病原性大腸菌O25 6歳女

マイコプラズマ肺炎増加中

インフルエンザも少なくないです。

【一宮市 城後小児科】

インフルエンザは2人になりました。

相変わらず感染性胃腸炎が散発しています。

【一宮市 一宮市立市民病院】

インフルエンザ 流行は終わりました。

【一宮市 医療法人かすが内科】

扁桃炎が流行しています。

アデノ：A群溶連菌：インフルエンザ桿菌
=1：2：7ぐらいの割合です。

【犬山市 武内医院】

インフルエンザ5例のみ。

溶連菌感染、水痘が目立っています。

ヘルペス口内炎も散発

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

インフルエンザ5名と非常に少なくなりました。

感染性胃腸炎と溶連菌感染症やや多く見られています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

嘔吐下痢を伴った胃腸かぜが多い様です。

【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

A型インフルエンザは3例のみです。
溶連菌感染症、感染性胃腸炎（5歳男〇1、1歳女サルモネラ〇7）、水痘が多い。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザは週前半に2例のみ（A型）流行は終息したみたいです。

溶連菌感染症が少し増加しました。

マイコプラズマ感染症も目立ちます。

その他 水痘、流行性耳下腺炎、突発性発疹症等

【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科】

A型インフルエンザ 6名

【豊明市 豊明団地診療所】

インフルエンザ 落ち着いてきました。

水痘が目立ちます。

【春日井市 春日井市民病院】

インフルエンザ激減

A型インフルエンザ 3例

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

6歳男 アデノ咽頭炎（イムノカードS
T）2日後溶連菌感染（スタットチェック）

36歳男 O1（++）

【春日井市 竹内医院】

RSVの入院 4名、ロタ入院 2名

B型インフルエンザが1名いました。

【小牧市 小牧市民病院】

胃腸炎が多いです。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

インフルエンザ著減しました。

溶連菌感染が目立ちます。

【小牧市 志水こどもクリニック】

インフルエンザA 3名

【半田市 医療法人林医院】

インフルエンザA型 5名

【南知多町 医療法人大岩医院】

9歳男 カンピロバクター（+）

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

インフルエンザA型7名、B型8名
6歳男、7歳女 StrepA（+）
6歳男 キャピリアアデノ（+）
4歳男 カンピロバクター
12歳男 カンピロバクター + E.coli
（O1）

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

インフルエンザはA型4名のみ

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

インフルエンザ計5名、全てA型

【岡崎市 粟屋医院】

インフルエンザA型1名（予防接種済1名）

【岡崎市 医療法人永坂内科医院】

StrepA（+）2人、FluA 1人

【刈谷市 田和小児科医院】

インフルエンザA型 2名
 【豊田市 田中小児科医院】
 4歳女 E.coli(O166)
 【豊田市 すくすくこどもクリニック】
 8歳男 病原大腸菌O1(+)
 インフルエンザは殆ど見られなくなりました。
 【岡崎市 花田こどもクリニック】
 今週は水痘が目立ちました。
 インフルエンザかなり減りましたが時々認められます。
 【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
 感染性胃腸炎が多いです。
 インフルエンザB型がみられました。
 【三好町 三好町民病院】

1歳男、2歳女、3歳女、5歳男 アデノ(+)
 7歳女 マイコプラズマ肺炎
 【岡崎市 にいのみ小児科】
 溶連菌感染症 6名
 インフルエンザA 5名
 インフルエンザB 1名
 【知立市 宮谷クリニック】
 嘔吐を主症状とした胃腸炎、水痘、マイコプラズマ感染症が目立ちます。
 【碧南市 永井小児クリニック】
 8歳男アデノウイルス感染症
 【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

11歳女 マイコプラズマ肺炎
 【田原市 かわせ小児科】

一～三類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

細菌性赤痢 <関連リンク> 二類感染症
<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#2-3>

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	知多	39	男	3/15	3/18	3/21	推定感染地域 インドネシア

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

- A型肝炎1例 (推定感染地域：国内)
<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#4-3>
- Dengue熱1例 (推定感染地域：インドネシア)
<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/mosquito.html#de>
- レジオネラ症1例(86歳)
<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/leg.html>
- アメーバ赤痢1例(推定感染地域：国内、推定感染経路：経口感染)
<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-1>

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

新聞やテレビに花便りが出る季節になりました。寒さに震えたお花見とか、上着を脱いで梢を見上げた新人歓迎会とか思い出しますが今年はどうでしょうか。いつも貴重な情報を有難うございます。3月前半～後半のまとめをお送りします。

- 1)名古屋市内:名鉄病院福田先生からはA型インフルエンザの流行が続いているが下火の傾向、ロタウイルス腸炎も同様に多いがカンピロバクター腸炎も少々あり、アデノウイルスらしい高熱を伴うCRP高値の咽頭扁桃炎が増加、A型インフルエンザとロタウイルス腸炎の重症例の入院が目立ち高熱とCRP高値の咽頭扁桃炎の入院増加、マイコプラズマ肺炎の入院は一定数あり、城北病院渡辺先生からは熱発者激減、時間外患者は少ないがインフルエンザ陰性、アデノ陰性の高熱患者散見、急性胃腸炎まだ少しあり、ロタウイルス陽性の児もまだ多い傾向あり、川崎病患者が多い傾向あり、第二日赤岩佐先生からはインフルエンザは少なくなり、例年インフルエンザBが出る季節だが出ていない、ロタウイルス感染症の入院が少ないがまだいる、千種区今枝先生からはインフルエンザは3月10日の7歳女受診以降なし、感染症は少なく5歳男のムンプス1例、三菱病院入山先生からはA型インフルエンザ6名(肺炎・気管支炎合併で入院4名)、A群溶連菌咽頭炎4名(入院1名)、感染性胃腸炎9名(ロタ2名で1名入院、病原性大腸菌O18が3名、O74、O25、カンピロ、黄色ブドウ各1名、細菌性胃腸炎の入院2名)、マイコプラズマを含む肺炎の入院3名、中京病院柴田先生からはインフルエンザのピークは越え、溶連菌感染症が増加、ロタ腸炎の入院が増え、川崎病の入院増加とのお手紙でした。
- 2)尾張地区:犬山市武内先生からはA群溶連菌咽頭炎が散発中でムンプス1例、感染性胃腸炎は猶流行が続き、インフルエンザ(A型)は漸減してきた、江南市昭和病院小児科からは溶連菌感染症が目立ち、伝染性紅斑数例、RSV感染症要入院例が再びでてきた、ムンプス髄膜炎が目立つ、市立半田病院中島先生からはインフルエンザがまだ残っているが数は少なく、喘息児が増加、喘息(～喘息性気管支炎)の入院があるがそれほど多くはない、インフルエンザの入院が数名、とのお手紙でした。
- 3)三河地区:トヨタ病院木戸先生からはムンプスが流行、成人の原因不明の脳炎が3～4人あり、咳と熱のある子が多い、加茂病院梶田先生からはインフルエンザAはだいぶ減少、B型は1名のみ、ロタウイルス性腸炎も減少、溶連菌感染症やや多く川崎病の入院が3人あり、碧南市永井先生からはインフルエンザが時々、溶連菌感染症、ムンプス、水痘がみられる、豊橋市からはA型インフルエンザ、ロタウイルス腸炎は減少したがウイルス性気管支炎(アデノウイルスなど)が目立つとのお手紙でした(長屋先生、宮澤先生)。有難うございました。

2006 年 3 月 17 日（81 巻 11 号） <http://www.who.int/wer/2006/wer8111/en/index.html>

途上国を対象とした毒素原性大腸菌(Enterotoxigenic E.Coli,ETEC) ワクチン開発。98 年東京で、03 年スイス・モントルーでETECワクチンに関する専門家会議をWHOが主催。本報は最近の概略である。(1)重要性：ETECは途上国における下痢の主要病因であり、5 歳以下小児で年間約 3 億～4 億、5～14 歳小児で 1 億人の下痢起因菌となっている。また、アフリカ、アジア、ラテンアメリカ諸国における旅行者下痢症の 1/3～1/2 の原因となっている。世界規模では 80～89 年の 5 歳以下小児で 5.6/1,000 人年間死亡の原因となっているが、健康児からもETECは高率に分離されていて、分布は広範に及んでいる。(2)ETECの疫学：最近いくつかの注目される報告あり：a)バングラデシュ。65 歳以上の高齢者の下痢死亡で原因菌となっている。b)ギニアビサウ。200 名小児の出生から 2 歳までの継続調査。毒素産生性と非産生性大腸菌の混合感染あり、c)エジプト・ナイルデルタの調査。乳児期早期から幼児期にETEC感染反復、初感染が再感染防御をしていない。(3)ワクチン開発：a)経口不活化ワクチン。現在開発中のワクチンはこれまでの患者分離株の 50～80%に共通な菌表面の易熱性、耐熱性毒素と 7 種類のCF（コロニー形成因子）抗原を含む多価ワクチンであり、エジプトとバングラデシュの成人の志願者の第 1 相、第 2 相接種試験では副作用なく、免疫応答良好、生後 6 か月以上の小児でも優秀であった。欧米先進国からアジアなど途上国への旅行者の志願者接種試験の結果も優秀であり、ETEC発病を 82%阻止できた。最近のプラセボ対照群を含む 700 名近い米合衆国旅行者（行先はメキシコ、グアテマラ）接種調査では、重症ETEC感染防御効果は 77%であったが、軽症の下痢は防御できなかった。また、エジプト郡部における 99 年～最近終了した無作為二重盲検法、戸別訪問調査では 350 人の生後 6～18 か月児で症状と菌培養からはワクチンの有効性は認められず、新たなワクチン開発の重要性が示唆された。他の不活化ワクチンも有効性を示すものは開発されていない。b)経口生ワクチン。毒素産生性を欠き、CFを産生する変異株の志願者接種試験で野生株のチャレンジに 75%防御効果を示した報告に引続いて開発が進められている。米メリーランド大学。ETECと共通抗原を産生する弱毒赤痢志賀菌やETEC遺伝子を組込んだ弱毒赤痢菌で生ワクチン開発（遺伝子工学的説明は略）、動物実験で有望な結果あり。米ジョンズホプキンス大学。非毒素産生性ETEC変異株の成人第 1 相試験中。c)ETECワクチンの経皮接種：成人志願者のCF + 易熱性毒素のコンポーネントワクチン皮内接種 3 回接種で 60%にIgG抗体、53%にIgA抗体上昇、易熱性毒素単独ワクチンのプラセボを含む第 2 相無作為試験では重症副反応なく、10%に接種後パッチテスト陽転をみた。d)ETEC結合（コンジュゲート）ワクチン：腸管の局所免疫獲得という面から米・国立衛生研究所のチームが開発研究中。

3 月 10～16 日届出。コレラ：アンゴラ、コンゴ共和国、タンザニア、ジンバブエ。

2006 年 3 月 24 日（81 巻 12 号） <http://www.who.int/wer/2006/wer8112/en/index.html>

鳥インフルエンザ。アゼルバイジャン（注：黒海沿岸の産油国。首都バクー）：05 年 3 月 21 日、人H5N1 感染疑い例 11 名（死亡 5）のうち 7 検体が英国WHO検査センターで

陽性確認。うち 6 例は同国南東部の戸数 800 ほどの集落で発生、他も隣接地区住民で初発例は 17 歳女性、死亡 2 月 23 日。以後同居家族や日常接触のある親族に発病。主に青年女性、肺炎症状。WHO 専門家が現地調査と対策指導中。現地保健省と WHO の共同作業から白鳥の大量死が発生していたことが判明。現地住民が羽毛を利用している。病死した白鳥と鶏と発病者の接触について調査中で保健省は近日中に公式発表予定。

鳥インフルエンザ。エジプト：3 月 20 日エジプト保健省は同国初発人 H5N1 感染確認例を報告。30 歳女性、カイロ近郊居住。3 月 2 日肺炎発病、16 日入院、翌日死亡。病死した鶏、家鴨、七面鳥と接触あり。エジプトでは 2 月 17 日以来鶏舎の鶏大量死が 26 自治体中 18 地区で発生中で、小規模養鶏も多い。

チクングニアとデング熱。(注：チクングニア = 日本脳炎や黄熱、デング熱などと同じ蚊が媒介するアルボウイルス感染症。熱帯アジア、アフリカに分布。デング熱類似の発熱と発疹が主症状で骨・関節痛が特徴。現地語で骨が折れるほどの苦痛、の意。時に出血熱合併。対策としてワクチンはなく、蚊対策、環境整備と住民教育)：インド洋南西諸国のチクングニア：仏領レユニオン(マダガスカル東方の小島)で 2 月 27 日～3 月 5 日に 196 例、5～17 日に 3,115 例の届出あり、デング熱と混合感染あり。3 月上旬までに周辺諸国に広がりマヨットで 2,833 例、モーリシャスで疑い 6,000、確認 1,200 例、セイシェルで 8,818 例、さらにフランスの 160 例をはじめドイツ、イタリアなど欧州各国の旅行者の輸入例あり。南インド：05 年 12 月～翌年 2 月、アンドラ Pradesh 州で 5,671 例のチクングニアとデング熱の混合流行、3 月上旬にマハラシュトラ州で 2,000 例以上のチクングニア疑い例とオリッサ州で 4,904 例の発熱と筋肉痛の患者発生。ウイルス検査実施中。マダガスカル、モルジブのデング熱：マダガスカルでは 1 月からデング熱流行、2 月からチクングニア散発、モルジブでは 1 月～3 月にデング熱疑い 602 例(出血熱 64 例)。

人鳥インフルエンザ感染予防とコントロール。WHO 対策計画の国家目標。中国。(1)現状：06 年 2 月 16 日までに 12 例確認(死亡 8)、臨床診断 1 例(一覧表あり)。WHO 指針で警戒度はフェーズ 3。(2)中国における国家的対応：04 年 1 月に副首相の下に特別委員会が設置され、WHO 専門家によるチェックが常時行なわれている。ウイルス分離、同定、型内鑑別、遺伝子解析が国立衛生研究所で実施可能。WHO の標準検査管理結果も良好。各地区の駐在員の訓練は良好。国立衛生研究所の活動は WHO と良好な連携が保たれている。中国における届出基準：a) 38 以上の発熱、b) X 線像で肺炎所見、または呼吸促進症状あり、c) 白血球数正常または減少、d) 抗生剤の使用 3～5 日で無効。挑戦(チャレンジ)すべき課題：発病してから入院するまでの期間がかかりすぎ、入院してから死亡するまでが短く、医療機関から WHO への報告日数が長く届出が遅い(発病～入院間隔、死亡までの日数、発病から WHO、公的機関への報告期間、それぞれの日数の平均と分布のグラフあり)。WHO は技術的な課題の支援を継続する予定。

ポリオ。05 年の世界の急性弛緩性麻痺(AFP)とポリオ届出数：05 年、世界全体で AFP 61,422 名、ポリオ確認例数 1,988 名(うち野生株ポリオ分離例 1,938 名)。ポリオ届出数が目立つのはナイジェリア 791 例(野生株 791 例)、イエメン 478(478)、インドネシア 349(303)、ソマリア 184(184)、インド 66(66)などであった(詳細な国別一覧表あり)。

3 月 17～23 日届出。コレラ：アンゴラ、マラウイ、モザンビーク、サントメ・プリンシペ。

愛知県感染症情報

2006年第1週～第12週(平成18年1月2日～平成18年3月26日)(累計)

愛知県衛生研究所

		定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)		195	182	35	51	13	310	54,036	373	3,680	14,761	3,829	628	303	1,169	3	10	36	7	1,973	9	194	3	4	60	0	0
総数 (名古屋市は除く)		125	112	24	37	12	281	43,089	299	2,594	9,530	3,078	413	251	921	2	6	26	7	1,723	6	150	3	4	60	0	0
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	29	10,947	74	1,086	5,231	751	215	52	248	1	4	10		250	3	44					
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	64	2,382	45	279	490	196	31	8	49			2		68		5			12		
海部津島	津島	7	7	2	2	1	1	2,188		57	950	161	16		26			1		34		6			3		
尾張中部	師勝	4	4	1	1			1,144		118	282	54	13	5	23					54		12					
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	5	3,123	29	161	705	309	62	18	83	1		2		85		18			12		
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	58	4,545	60	248	687	229	67	15	73		1	6		286		18	1	3			
	江南	6	6	1	2		21	1,855	29	235	793	180	24	12	96			4	3	103		11					
知多半島	半田	6	6	1	2	1	8	2,418	11	183	249	222	60	27	96			4	2	52		9	1				
	知多	7	7	2	2		34	2,473	14	195	605	232	19	28	66			1		59		6					
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	9	3,613	22	194	489	265	15	10	100		4			67		1					
	衣浦東部	13	13	2	4	1	21	6,112	26	327	1,005	293	30	9	80	1				106		15			1		
	西尾	5	5	1	2	1		1,741	8	78	509	158	6	4	40		1			34	5	17			1		
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1	17	4,871	17	150	1,072	201	16	15	83			4		94		16	1	1	21		
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1	26	3,730	24	166	978	292	28	19	57			2	1	368	1	5			5		
	豊川	9	8	1	2	1	17	2,519	14	199	715	286	25	81	47				1	306		11			5		
東三河北部	新城	2	2			1		375		4	1		1		2					7							

